

平成 26 年度 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業
多職種連携医療専門職養成プログラム CoMSEP

平成 30 年度年次報告書

CoMSEP 事務局（筑波大学 医療科学類）

平成 31 年 3 月 31 日

〔目次〕

I. 運営委員会議事録（第1回・第2回）	-----	1
II. 「客観的臨床能力試験」実施報告	-----	5
III. 生体機能診断ワークショップ実施報告	-----	6
IV. 履修証明プログラム報告	-----	9
V. 外部評価委員コメント	-----	12
VI. 総括	-----	13
VII. 発表	-----	14
VIII. 出版	-----	14
IX. 広報活動	-----	14

I. 運営委員会議事録

<第1回議事要旨>

1. 日時 平成30年4月27日(金) 17:00~18:30
2. 場所 筑波大学医学4B棟(看護・医療科学類棟)104会議室

【出席者□ 欠席者■】

□二宮治彦(筑波大学)、■川上康教授(筑波大学)、■正田純一教授(筑波大学)、□門間正彦教授(茨城県立医療大学)、□富田和秀教授(茨城県立医療大学)、□大橋ゆかり教授(茨城県立医療大学)、□石森佳幸准教授(茨城県立医療大学)、□對間博之准教授(茨城県立医療大学)、■鈴木悦(つくば臨床検査教育・研究センター)、□會田雄一助教(筑波大学)、□服部圭一朗助教(筑波大学)

3. 議題

①平成29年度年次報告

資料1をもとに、平成29年度年次報告が示され、5月にはホームページで公開されることが述べられた。

②平成30年度予算

資料2をもとに、平成30年度予算案が示され、文部科学省からの補助金内定額は8,618,000円、自己資金100万円(茨城県立医療大学50万円・筑波大学50万円)、合計9,618,000円となることが報告された。

1) 人事

平成30年4月採用の服部助教がCoMSEPの助教として中心的に業務を担い、平成30年8月から會田助教はサポートする立場になることが説明された。

2) 学会発表・論文投稿

資料3をもとに、学会発表と論文投稿の予定が示された。8月11日に茨城県立医療大学で行われる日本保健医療福祉連携教育学会第11回学術集会には、CoMSEPとして発表ができるように、茨城県立医療大学を中心に検討することが求められた。

3) OSLE

評価ポイント、学生の学習ポイントを含めたビデオ教材の作成を最終目標としていることが述べられた。

4) 学部交流WS

日程は決定済みなので、具体的な内容を検討し、文部科学省からの助成終了後も継続できる方策

が求められた。茨城県立医療大学での担当は中島助教と田子谷助教、筑波大学の担当は磯辺教授と服部助教が担当することが確認された。

5) 合同公開講座

平成 31 年 2 月 3 日（日）につくば国際会議場において開催されることが述べられた。多数の来場者が見込めるテーマを決めることが要請された。筑波大学の担当者は山内准教授、茨城県立医療大学の担当者は石森准教授であることが確認された。

6) 履修証明プログラム

今年度の履修証明プログラム履修生は、臨床検査技師 4 名、診療放射線技師 6 名、理学療法士 4 名の計 14 名。内 4 名は昨年度からの継続履修生であることが報告された。来年度以降の履修費について、二宮教授が筑波大学本部との交渉で金額を確定した後、スクーリングの回数や運営方法について検討すべきであることが述べられた。

③その他

- ・外部評価委員の一人である門馬敏郎氏から、日立製作所ひたちなか総合病院の根本誠一氏に代わることが報告された。
- ・30 年度 9 月の 3 日間で行う集中講義「多職種連携医療学概論」は、9 月 18 日～20 日を予定しており、この講義を録画して e-learning のコンテンツを更新していることが述べられた。
- ・次回運営委員会は平成 30 年 12 月に開催予定

< 第 2 回議事要旨 >

1. 日時 平成 30 年 12 月 21 日（金） 16 : 30～
2. 場所 筑波大学医学 4 B 棟（看護・医療科学類棟）104 会議室

【出席者□ 欠席者■】

二宮治彦（筑波大学）、■川上康教授（筑波大学）、■正田純一教授（筑波大学）、□門間正彦教授（茨城県立医療大学）、□富田和秀教授（茨城県立医療大学）、□大橋ゆかり教授（茨城県立医療大学）、□石森佳幸准教授（茨城県立医療大学）、□對間博之准教授（茨城県立医療大学）、■鈴木悦（つくば臨床検査教育・研究センター）、□會田雄一助教（筑波大学）、□服部圭一朗助教（筑波大学）

3. 議題

①平成 30 年度進捗状況

1) 履修証明プログラム

今年度の履修生 14 名は、全員が順調に履修していることが報告された。

2) 学部交流プログラム

平成 31 年 1 月 22 日と 25 日の 2 日間に、筑波大学と茨城県立医療大学の 3 学科が合同で行うことが述べられた。

3) 合同公開講座

平成 31 年 2 月 3 日に行われる合同公開講座のプログラムが紹介された。例年通り、茨城県の臨床検査技師会・診療放射線技師会・理学療法士会よりポイントの後援をいただいていることが確認された。

4) OSLE

OSLE は筑波大学医療科学類の学生を対象として 9 月に実施した。来年度以降も、筑波大学医療科学類の学生に引き続き実施する予定であることが報告された。

5) 学会・論文発表

5 月に開催された「第 67 回日本医学検査学会」、8 月に開催された「日本保健医療福祉連携教育学会第 11 回学術集会」および「第 13 回日本臨床検査学教育学会学術大会」において、それぞれ多職種連携教育についての発表を行った。

論文は『Medical Education』に OSLE に関する英文投稿をしたこと、『臨床検査学教育』には 8 月の学会発表の内容が推奨論文として掲載予定であること、理学療法学の分野では『保健医療学雑誌』に掲載予定であることが報告された。

6) 予算執行状況

最終年度となるため消耗品のみの購入となっており、学部交流プログラムと合同公開講座で残りの補助金を使う予定であることが報告された。

②来年度以降の計画・展望

1) 履修証明プログラムカリキュラム

2018 年度で文部科学省からの補助金が終了するため、2019 年度の履修費を年額 40,000 円とすることが報告された。現在、厚生労働省の専門実践教育訓練給付金制度指定対象講座に申請中であり、結果は 1 月中に出るが、対象講座として指定されれば条件によっては経費の 50%を支給される制度が紹介された。

また、スクーリングは 9 月に 2 日間のみ行い、その講義を e-learning コンテンツの更新科目とすることが提案された。

2) 学部交流プログラム

マイクロバス代の予算が確保できれば継続可能であるため、2019～2020 年度は同じスケジュールで続け、2021 年度以降の日程については改めて調整することが提案された。

3) 合同公開講座

履修証明プログラムの中に組み込む形で 5 回実施してきたが、2019 年度からは予算の関係もあり、休止の方向で考えていることが報告された。

4. その他

・2019 年度以降は、筑波大学の會田助教が中心となってプログラム後の事務を担当することが報告された。放射線技術科学と理学療法学の各担当者を決めることが要請された。

・ホームページは <http://md.tsukuba.ac.jp/comsep2/> を新たに立ち上げ、會田助教が更新していくことが報告された。

・現ホームページ <http://md.tsukuba.ac.jp/comsep/> には、5 年間の成果としての年次報告書をアップした形で終了することが述べられた。

II. 「客観的臨床能力試験」実施報告

国家試験を受験する前に医療現場で実習を行う「臨床実習」は、医療専門職の卒前教育において重要な位置を占める。医師、歯科医師、薬剤師の養成においては、臨床実習に参加する学生の技能を評価するために「客観的臨床能力試験」がすでに導入されている。また理学療法士や診療放射線技師などの養成課程をもつ茨城県立医療大学では他の養成機関に先行して、臨床実習の前後に客観的臨床能力試験を実施している。一方、臨床検査技師の養成機関で客観的臨床能力試験を実施している事例は限られる。

今年度も、茨城県立医療大学理学療法学科では4年次前期の「総合臨床実習」の前後に、また放射線技術科学科では3年次後期の「臨床放射線技術学実習」の前後にそれぞれ客観的臨床能力試験を実施した。また筑波大学医療科学類においては5回目となる **Objective Structured Laboratory Examination**（医療科学類では客観的臨床能力試験を **OSLE** と呼んでいる）を実施し、全国の臨床検査技師養成機関に横展開するための試みを継続した。

9月27日に **OSLE** を実施し、翌28日には「総括」と称して試験内容について解説する機会を設けた。対象は医療科学類3年生39名であり、6～7名からなるグループを6つ編成して試験を運営した。試験範囲は臨床検査技師国家試験出題基準にある科目のうち臨床検査医学総論、公衆衛生学、医用工学概論を除く7科目とし、この中から3科目を試験当日に発表して学生の技能を評価した。学生は事前に、医療科学類実習委員会が作成した「**OSLE** の手引き」（昨年度、全国の臨床検査技師養成機関に配布した）を使って、それまでの学習内容を振り返るとともに **OSLE** の評価項目を確認した。また筑波大学附属病院検査部の協力を得て5～15分の動画からなる「視覚教材」を今年度新たに作成し、学生の **OSLE** 前の復習を促した（視覚教材の内容が **OSLE** で出題されるとは限らない）。来年度以降も視覚教材を追加していく予定である。

平成30年度に作成した視覚教材

マイクロピペット操作法／試験紙法による尿定性検査／屈折法による体液比重検査／
手指洗浄法／無菌操作法／各種滅菌法（火炎、乾熱、オートクレーブなど）／
グラム染色方法と特殊染色方法（チールネルゼン）／分離培養・増菌培養・特殊培養／
静脈採血／採取容器（抗凝固剤）の選択／末梢血塗抹標本作成・普通染色／心電図検査

筑波大学の学習管理システム「manaba」で学生に公開した（来年度からは閲覧制限のあるWebサイトで公開する予定である）。

各科目の試験時間は65分とし、臨床検査技師が臨床検査を行う際に求められる準備から片付けまでの技能を評価した。評価者は3名であり、一人当たり2名の学生を一度に評価できる体制を整えた（学生と評価者が1：1の科目では評価者は2名であった）。その後、12月から始まる臨床実習に向けて、試験翌日の「総括」や、評価表の返却（10月12日）、必要な学生への個別指導といったフィードバックを行い、学生の **OSLE** 後の復習を促した。

客観的臨床能力試験と臨床実習の改善のために昨年度の臨床実習の前後に実施した学生および実習指導者に対するアンケート調査の結果は、8月に開催された第13回日本臨床検査学教育学会学術大会で発表した。今年度は質問票を改良して実施した。

Ⅲ. 生体機能診断ワークショップ実施報告

筑波大学・茨城県立医療大学の学部交流プログラムである「生体機能診断ワークショップ」を二日にわけて行い、1月22日火曜日は筑波大学、25日金曜日には県立医療大学にて実施した。今回で5回目となる生体機能診断ワークショップでは、例年同様に「将来医療チームの一員として、各々の専門職種としての役割を果たし患者さんの生体機能情報をいかに診断し治療・ケアに反映させるか」という課題について専門領域の異なるメンバー間での討論を行い、各専門職種の理解を深めて、チームワーク及び当事者の力を引き出すエンパワメントの意義を理解し、ケアの方針をたてる過程を体験する」ことを目的とした。

今回は、筑波大学医療科学類3年38名、茨城県立医療大学放射線技術科学科3年37名、理学療法科3年42名の3学科計117名が参加した。本年度の生体機能診断ワークショップのプログラムは表1に示す内容で行った。昨年度と同様、「生体機能情報をいかに診断し、治療・ケアに反映させるか」を目的に症例を提示し、討論（コアタイム）を中心に行って3職種の理解を深められるようなプログラムを作成した。本年度は昨年度と同様に、「Case 1：脳梗塞に関する症例」、「Case 2：乳がんに関する症例」、「Case 3：COPDに関する症例」の3種類の症例を用いてコアタイムを実施した。具体的には、学生を12班に分けた後に各班に1症例ずつ割り当てを行い、シナリオについての討論を重ねるように促した。

表1 平成30年度生体機能診断ワークショッププログラム

1日目 筑波大学 1/22(火)		2日目 茨城県立医療大学 1/25(金)	
9:30～10:30	オリエンテーション	9:30～10:30	コアタイム-2 (1時間)
10:30～10:40	(休憩・移動)	10:30～11:30	グループワーク (1時間)
10:40～12:20	アイスブレイク (30分) グループワーク (70分)	11:30～12:30	昼休み (各自用意、食堂使用可能)
12:20～13:20	昼休み (各自用意、食堂使用可能)	12:30～14:30	まとめのワーク (2時間)
14:30～15:00	コアタイム 全体説明	14:30～14:40	休憩・移動
15:00～15:20	(休憩・移動)	14:40～16:30	発表会 (総括も含む)
15:20～16:20	コアタイム-1 (1時間)	16:30～16:50	アンケート
16:20～16:30	(休憩)	17:00	解散
16:30～17:30	グループワーク (1時間)		
17:30～17:40	(休憩・移動)		
17:40～18:00	2日目の説明		
18:00	解散		

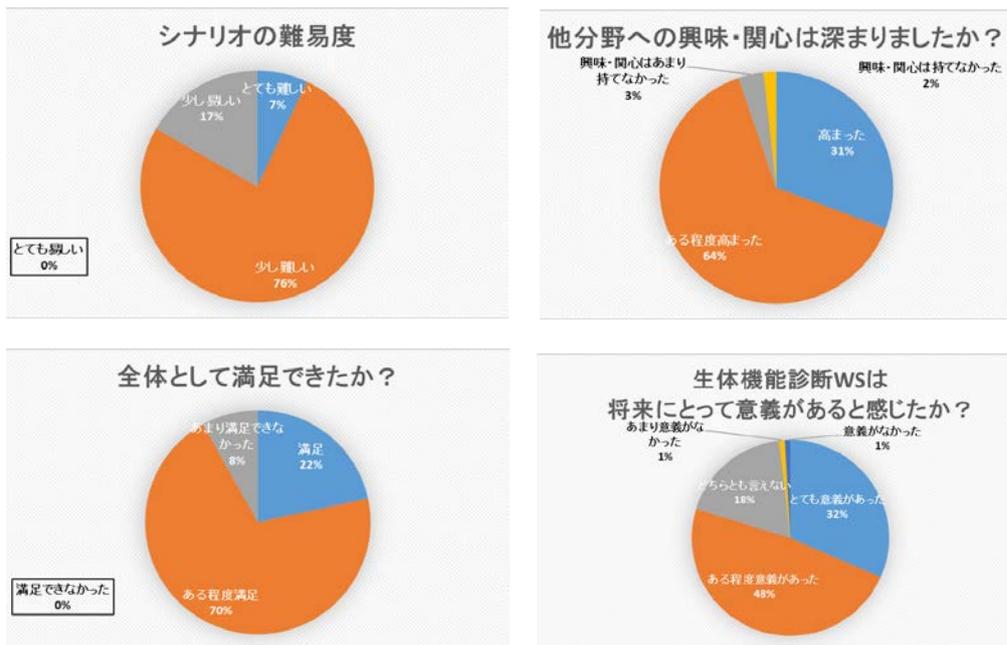
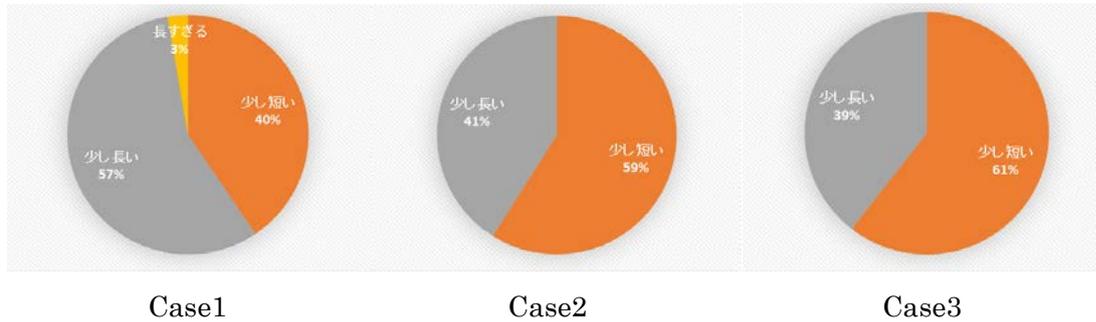


図 生体機能診断ワークショップ後に実施したアンケート結果(全体)

本年度は昨年度と同一のシナリオを用いていたためか、満足度や他分野への関心や興味については昨年とほぼ同様の結果であったが、その一方で昨年度と比較すると「少し難しい」とする意見が76%と多くを占めており、また「将来にとって意義があると感じたか？」という質問に対して、「どちらとも言えない」という意見が18%と昨年度より多かった。シナリオの難易度や内容については再考の上で検討する必要があると考えている。

プログラム時間は適当だったか？（コアタイム・グループワーク 2）



プログラム時間は適当だったか？（まとめのワーク）

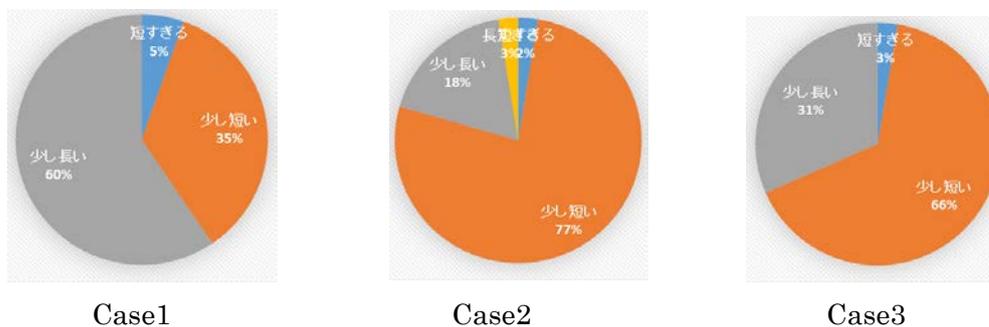


図 生体機能診断ワークショップ後に実施したアンケート調査（Case 毎に分けて表示）

Case 間での学生の意見についても比較検討した。特に違いが目立ったのは「プログラム時間は適当でしたか？」の質問の中のコアタイム・グループワークの時間と、まとめのワークの時間であった。その結果は上記の通りであり、Case1 よりも Case2,3 においてこれらの時間が少し短い、という感想が多かった。

先述した通り、「Case 1：脳梗塞に関する症例」、「Case 2：乳がんに関する症例」、「Case 3：COPD に関する症例」であり、症例の解釈の難易度の違いがアンケート調査の結果に反映されていると思われた。シナリオの難易度だけではなく、割り振りの時間についても再検討が必要と考えられる。

これらの結果も踏まえて、次年度にむけてより良い内容のワークショップにブラッシュアップできるように検討していきたい。

IV. 履修証明プログラム報告

筑波大学履修証明プログラム「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」は、臨床検査学、放射線技術科学、理学療法学を1年間で学び直すリカレント教育である。医療現場で働く臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士はもちろん、薬剤師や看護師、そのほかの医療専門職の方々も学べる教育プログラムとなっている。

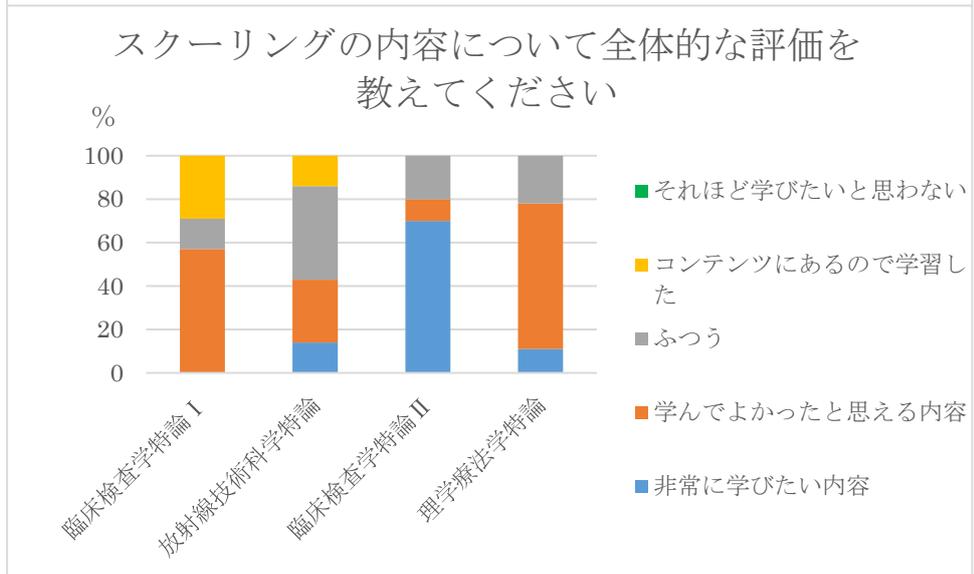
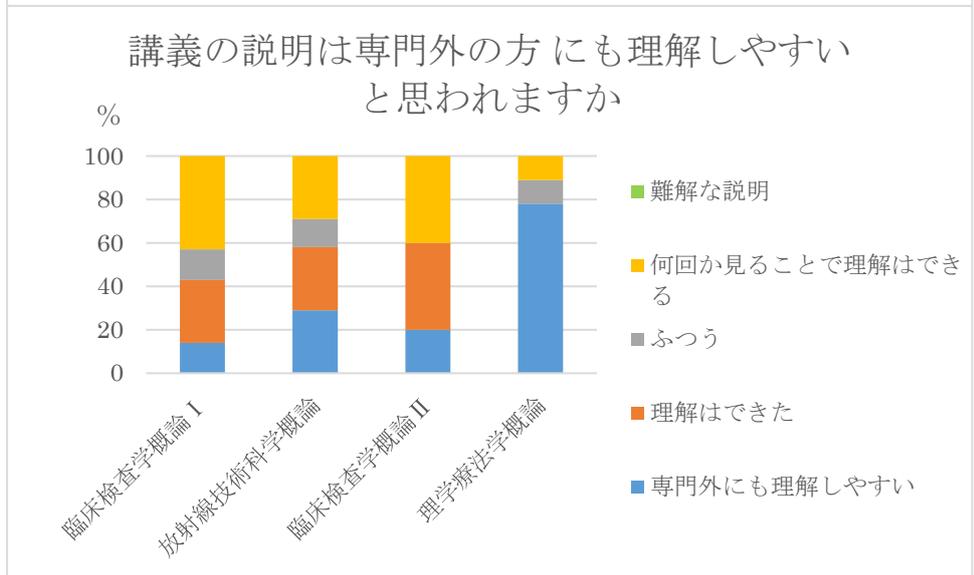
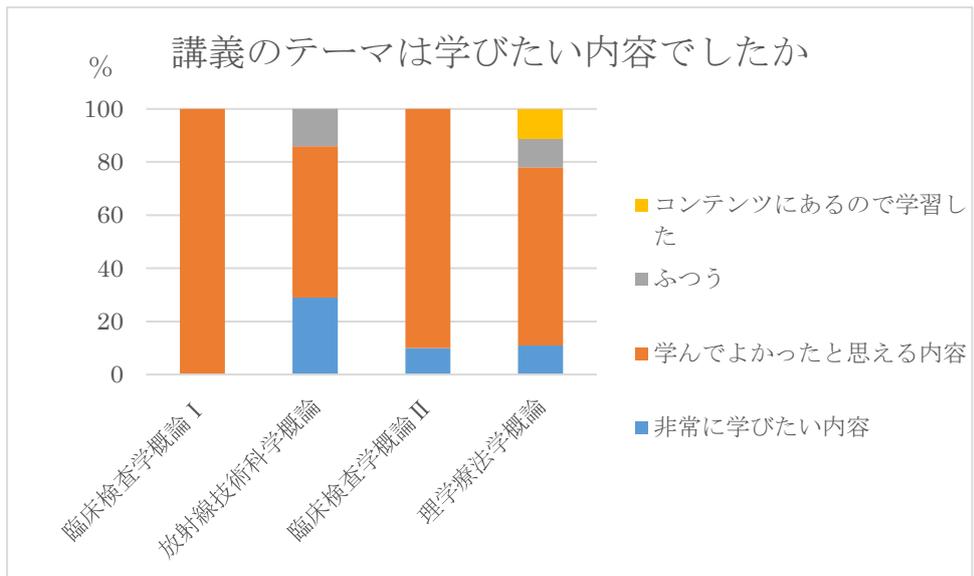
今年度の履修生（第4期）は14名であった（臨床検査技師4名、診療放射線技師6名、理学療法士4名）。勤務病院は、茨城県10名、青森県・埼玉県・奈良県・兵庫県1名であった。4月8日（日）に筑波大学において開講式を挙行し、履修生は120時間の履修を開始した。e-learningのコンテンツは、「概論」において自身あるいは他の医療専門職の基礎的な知識を学習したうえで、より先進的な知識と技術を「特論」によって獲得できるものになっている。一方、スクーリングは6月24日（日）と12月16日（日）に筑波大学において、8月26日（日）、2月17日（日）に茨城県立医療大学において実施した。2月3日（日）には筑波大学・茨城県立医療大学合同公開講座を開催した。公開講座での議論に参加することによって、履修生は多職種の医療専門職からなるチーム医療への理解を深めた。3月までに、14名全員が76を超えるレポートを提出し、履修を完了した。

120時間のコンテンツを更新する取り組みは昨年度から開始しているが、今年度も筑波大学医療科学類開設の授業科目「多職種連携医療学概論」との連携を進めた。9月18～20日に行われた講義を自動収録システムで収録し、編集を加えて来年度以降の履修証明プログラムのコンテンツにするものである。単位互換制度によって茨城県立医療大学生の履修を積極的に推進しており、両大学の学生の交流も図っている。8月に開催された第11回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会では、履修証明プログラムの普及とコンテンツ更新に関する課題について発表し、ベストプレゼンテーション賞を受賞した。

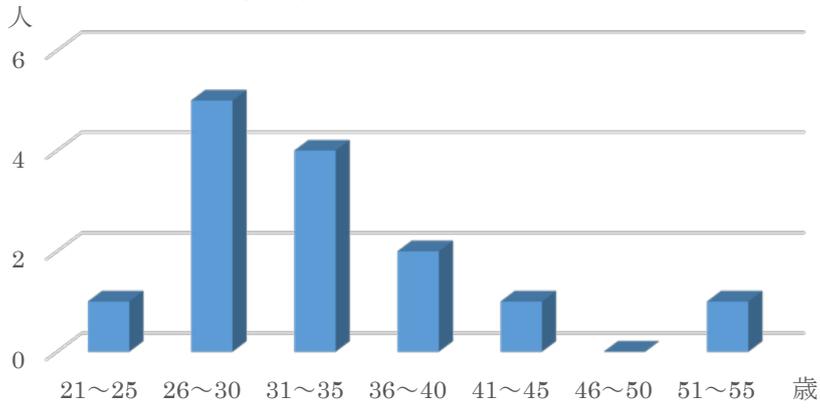
補助期間終了後に事業を継続するための取り組みも進めた。まず平成31年4月1日付で厚生労働省による専門実践教育訓練給付制度指定講座として、職業実践力育成プログラム（特別の課程）（保健）26講座の一つとなることが決定した。また来年度以降の広報活動のためにWebサイトを開設した（<http://www.md.tsukuba.ac.jp/comsep2>）。そして2月の公開講座に合わせて来年度の新カリキュラムを公開し、3月に新履修生を募集した。

大学内では、リカレント教育や職業実践力育成プログラムといった言葉そのものが一部の関係者にしか認知されていない現状がある。国立大学協会の資料に取り上げられた本履修証明プログラムではあるものの、補助期間終了後も事業を継続し、大学にリカレント教育を根付かせていくためには、教員の社会貢献の業績として適正に評価されることや、教員と職員がエフォートの一部を使って兼務する教職協働が推進されることが必要である。一方、職業実践力育成プログラムに認定された履修証明プログラムとして、関連分野の企業等の意見を取り入れることが求められる。今後も、これまでに培った職能団体との連携を維持する。こうした大学内外の体制を整え、より良いコンテンツを履修生に提供していく。

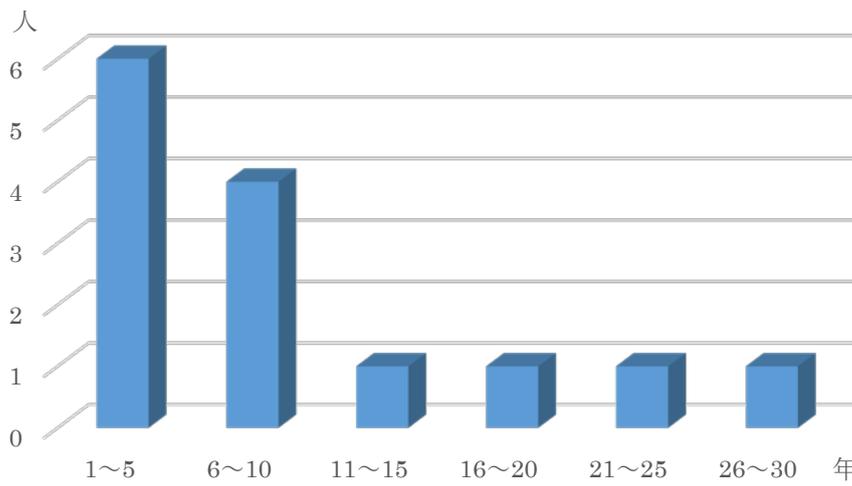
（参考）国公立大学振興議員連盟第11回総会「国立大学協会資料（12ページ）」<https://www.janu.jp/news/20171115-giren12.pdf>



第4期履修生の年齢



第4期履修生の経験年数



V. 外部評価委員コメント

平成 30 年度「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」外部評価

総合評価シート 平成 31 年 2 月 26 日

外部評価委員代表者氏名 (浅野 信一)

履修証明プログラムにある e ラーニング講義は、専門外の対象者にも配慮されており、3 専門職種それぞれが臨床知識を拡充するのに適切な内容であり、さらにそれを現場で生かすことにより患者の利益も向上するものと思われま

す。茨城で始まったこのプロジェクトは、ともすると病院内でのコミュニケーションが不足しがちな 3 職種間の距離を縮め、連携を進めることにより医療の質を向上させていくことが出来得るものと考えます。

その中で、本講座の目的が多職種連携、チーム医療の教育、指導的メディカルスタッフの養成であるならば、看護、薬学、医療安全、患者安全等を含めた内容を加える事で、さらに有用なプログラムとなるでしょう。

検査診断力の向上および 3 職種の連携により、多角的な病態理解、リスクマネジメントの精度が上がり、結果として適切に患者の回復を促す事で、入院期間の短縮化、健康寿命の延伸といった社会貢献にもつながるものと考えます。

今後も茨城発信として全国の学生や教育機関に種をまき、現役の従事者に示唆を与えて下さることを期待いたします。

VI. 総括（文責： プログラム・リーダー 二宮治彦）

本プログラムは、平成30年度、文部科学省の補助金支援事業の最終年度として、計画の遂行と来年度以降も事業を継続するための基盤の確立を目指しました。

昨年度から開始した「多職種連携医療科学概論（1単位）」を医療科学類の正規授業科目として継続させ、これを社会人教育のための「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」のコンテンツの更新メカニズムとして定着させることができました。講義については、茨城県立医療大学の先生方に講師陣として参画いただきます。

OSLE と称している臨床検査技師を目指す学部学生の実技能力を客観的に評価し、学生へのフィードバックを行う事業については、「OSLE の手引き」に加えて、学生が学習のポイントを理解するための「動画コンテンツ」の充実を図りました。また、臨地実習先の指導者へのアンケート結果などを踏まえて、臨地実習後の評価の必要性も明らかとなったことから、来年度以降は臨地実習後 OSLE に関して継続的な開発を目指して活動していきます。

学部交流事業は、多職種の連携の必要性を学部学生の教育課程において実施する有意義な取り組みとして、継続的に茨城県立医療大学と筑波大学医療科学類の共同事業として継続することが約束されています。

最終年度ということもあり、3医療専門職の全国的な組織の会長の先生方を講師としてお招きして、合同公開講座を開催できたことは、この事業を締めくくりにあたって特筆すべきことであります。

5年間の事業は両大学が学部の枠を超え、協力してよき医療人を育成するためには協力するという意識と体制が形成できたことにあります。

外部評価委員会の評価は、特に社会人向けの履修証明プログラムに関して好意的であり、この期待に応えるべく、来年度からの継続事業（CoMSEP-Beyond）についても、特に力点を置いて発展させていくことが期待されています。

VII. 発表

- ・第13回日本臨床検査学教育学会学術大会（北海道）

「臨地実習後の項目別自己評価：OSLE 客観評価との関連性の検討」

服部 圭一朗, 會田 雄一, 真家 紘一郎, 山内 一由, 森川 一也, 中川 嘉, 吉田 文代, 小池 朗, 二宮 治彦

- ・第67回日本医学検査学会（静岡）

「大学と病院をつなぐ多職種連携医療専門職養成プログラムの成果」

會田 雄一, 山内 一由, 関本 道治, 真家 紘一郎, 二宮 治彦

- ・第11回日本保健医療福祉連携教育学会（茨城）

「履修証明プログラム「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」の普及とコンテンツ更新に関する課題」----ベストプレゼンテーション賞受賞

會田 雄一, 服部 圭一朗, 真家 紘一郎, 関本 道治, 山内 一由, 二宮 治彦, 對間 博之, 佐藤 斉, 門間 正彦, 富田 和秀, 大橋 ゆかり

- ・第11回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会（茨城）

「3領域の学部生合同で行う生体機能診断ワークショップの試み」

大橋 ゆかり, 瀬高 裕佳子, 青山 敏之, 宮田 一弘, 富田 和秀, 中島 修一, 田子谷 佳加, 門間 正彦, 會田 雄一, 磯辺 智範, 二宮 治彦, 関本 道治

- ・第11回日本保健医療福祉連携教育学会（茨城）

「多職種連携医療を推進するための診療放射線技師教育について～多職種連携医療専門職養成プログラム「CoMSEP」への取り組み～」

中島 絵梨華, 對間 博之, 石森 佳幸, 中島 修一, 田子谷 佳加, 佐藤 斉, 門間 正彦, 関本 道治, 大橋 ゆかり, 二宮 治彦

VIII. 出版

- ・TJMS 14(2): 12-13, 2018

「第11回日本保健医療福祉連携教育学会学術学会-医療科学類4年生 シンポジストとして参加-」
服部圭一朗, 會田雄一, 二宮治彦

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/cnmt/Medtec/3%2020180904%203%20TJMS.pdf>

IX. 広報活動

CoMSEP ホームページ

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/comsep/>

ホームページからリンクした YouTube 動画

多職種連携医療専門職養成プログラム (CoMSEP) 1

<https://www.youtube.com/watch?v=2obYk60duIM>

多職種連携医療専門職養成プログラム (CoMSEP) 2

https://www.youtube.com/watch?v=Hm20shhYr_8

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2018. 8

https://www.youtube.com/watch?v=5V4fZkdC5N4&list=UUohxtbbsnz5SNAU3qyY_pGQ&index=2

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2018. 6

https://www.youtube.com/watch?v=CU4VOGc6rTg&index=3&list=UUohxtbbsnz5SNAU3qyY_pGQ

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2017. 12

<https://www.youtube.com/watch?v=UMN3PRu3dRQ>

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2017. 9

https://www.youtube.com/watch?v=IFkq-hVOG_o

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2017. 6

<https://www.youtube.com/watch?v=UCTV3p1NpRo>

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2016. 6

https://www.youtube.com/watch?v=jIFRjt7tuT8&list=UUohxtbbsnz5SNAU3qyY_pGQ&index=14

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2015. 6

https://www.youtube.com/watch?v=xWmsfZiHroA&list=UUohxtbbsnz5SNAU3qyY_pGQ&index=19

合同公開講座 2017

<https://www.youtube.com/watch?v=SU4uF2tOW5g>

合同公開講座 2016

<https://www.youtube.com/watch?v=bmDE1wBVIRE>

合同公開講座 2015

<https://www.youtube.com/watch?v=c0sYAOSHidE>

合同公開講座 2014

<https://www.youtube.com/watch?v=THRBvCObswo>

生体機能診断ワークショップ 2016

https://www.youtube.com/watch?v=7Xl_dX8zJao

生体機能診断ワークショップ 2015

<https://www.youtube.com/watch?v=WeXR45QUT0k>

臨地実習前 OSCE (試行 5 年目・2018)

https://www.youtube.com/watch?v=3kk57911Yb8&list=UUohxtbbsnz5SNAU3qyY_pGQ&index=2&t=0s

臨地実習前 OSCE (試行 4 年目・2017)

<https://www.youtube.com/watch?v=H27vKSh7cug>

臨地実習前 OSCE (試行 3 年目・2016)

<https://www.youtube.com/watch?v=hCytJENPkVY>

臨地実習前 OSCE (試行 2 年目・2015)

https://www.youtube.com/watch?v=o_gl3QytToo

臨地実習前 OSCE (試行 1 年目・2014)

https://www.youtube.com/watch?v=k5_pm8hIVBo

第 3 期履修生 履修証明授与式

<https://www.youtube.com/watch?v=SBir1iVfEMI>

第 2 期履修生 履修証明授与式

<https://www.youtube.com/watch?v=AFn8jVErTi4>

第 1 期履修生 履修証明授与式

https://www.youtube.com/watch?v=DkB3DgMhnnA&list=UUohxtbbsnz5SNAU3qyY_pGQ&index=15